

Vol.111 | ウォーターフロントのガレージハウス

都心の運河を望む 和モダンテイストの 旗竿地ガレージ

緑の長いアプローチを抜けると、和と洋が巧みに融合するガレージハウスが現れた。仕事用のオフィスとプライベートな居住空間を共有する、その住み心地とは…

文・菊谷 聡 写真・木村博道
text / KIKUTANI Satoshi photo / KIMURA Hiromichi

今 回訪したのは、都心のウォーターフロント。築地移転問題で注目が集まる豊洲にほど近く、昭和の面影を色濃く残す住宅が新旧混在するなか、高層マンションも林立するという街並みだ。目的のT邸が建つ土地は、過去にTさんのお父様が倉庫業を営んでいた跡地だという。仕事柄、水上物流を利用したためか、運河に面したロケーションは文字どおりウォーターフロントそのもの。付近はTさんが生まれ育った土地であり愛着もひとしおとか。

敷地は、いわゆる旗竿形状。正面の門から長いアプローチを通過してガレージドアに至り、そこからさらに斜め奥に向かってT邸は広がりをもっている。アプローチの両側は緑に恵まれ、風格ある大きな門の存在と相まってT邸の存在感を強調している。そのアプローチを抜けて玄関に向かうと、横開き式のガレージドアにたどり着く。ドアを開けるとそこには広大なガレージスペースが広がり、メルセデス・ベンツSL550、S550、ボルシェ マカンターボの3台が並ぶ。そしてマカンの後方の奥まった場所には、Tさんがコレクションとして大切にしているフェラーリF355スパイダーが鎮座しているというレイアウトだ。

これまで30台以上のクルマを乗り継いできたというTさんのクルマ選びのポイントは、「インスピレーションです」。ラインナップのなかでもオープン2シーターはTさん夫妻共通の好みで、これまでR107の450SLに始まり、500SL (R129)も乗り継いできた。ご自身で「一生手放さない」とおっしゃるF355ももちろんスパイダーで、官能的なV8サウンドを伴ったオープンエアモータリングに惚れ込んでいる。ガレージに収まる愛車たちの後方は、キャディバッグ

などクルマから降ろした荷物を置いておけるように空間に余裕をもたせていることも特徴。ゴルフに出掛ける頻度の高いTさんにとっては、積載する荷物を準備するために重宝するスペースだという。

玄関から邸内に入ると、広いエントランスホールが迎えてくれる。右手にはゴルフシミュレータールーム、左手はシアタールームというレイアウト。ゴルフ関連企業を営んでいるTさんだけに、ゴルフシミュレーターはご自身の練習用というだけでなく、ビジネスツールとしても活用されている。シアタールームは、ドアを開けた瞬間に壁面に設置された120インチの大スクリーンが目飛び込んでくる。しかしこの部屋のハイライトは、左側の広大な窓からガレージ内のF355スパイダーが眺められることにある。美しいサイドビューを強く身近に感じられる。

1階はこのようにガレージを中心とした趣味の部屋で構成されており、2階はオフィスルームのほかご夫妻の寝室、3階はダイニングルームやゲストルームなどを備える。なかでも3階は、T夫妻が希望した「和モダン」コンセプトで統一されている。

設計は、建築家の尾高光一さん。手掛けることになったきっかけは、Tさんの奥様が建築に関する情報を集めているなかで、尾高さんが所属する建築会社によるデザインと出会ったこと。ほぼファーストプランに近い状態で竣工したT邸について、T夫妻は、「尾高さんは、私たちの要望を十分に満たしてくれました。和モダンのデザインもゲストから好評ですし、生活動線がよく考えられているので、暮らしやすいということが何より嬉しいですね」



②ガレージにはTさんの趣味であるラジコンヘリが飾られている。玄関前のアプローチでヘリを飛ばすことも楽しみの一つ ③ガレージからアプローチを望む。アプローチは長く、余裕をもってクルマ4台が駐車できるほどのスペースがあり、ゲスト対応も万全だ



①愛車を身近に感じながら寛げるシアタールーム。部屋の照明を落とすと、ガレージのF355スパイダーが美しく浮かび上がる



④横開きの格子状ドアのせいか、爽やかな雰囲気が漂うガレージ内部。奥様の愛車マカンの後方に、F355スパイダーが収まっている



和洋を融合させたコンセプトで住み心地のよさを実現



⑤運河を見下ろす3階のリビング&ダイニングルーム。10名ほどのパーティを頻繁に開催するという ⑥明るい自然光に包まれる1階のエントランスホールに入ると、愛犬のイラストが迎えてくれる ⑦仕事柄、スイングのチェックや飛距離の確認など、Tさんは自宅でのトレーニングに余念がない

と、絶賛。和モダンをもっとも象徴する空間が、3階の和室だ。そこには隠れ扉のような引き戸があり、開けると黒石が敷き詰められた和室へのアプローチが出現する。ここには、洋から和へ雰囲気を変える役割が与えられているという。

「正面の窓は格子で覆われています。その先には運河の景色が広がっているのですが、あえて格子越しに景色を見ることで、和の奥ゆかしさや風情を表現しています。この和室は、T邸全体のコンセプトを具現化した空間となっているのです」

このように、尾高さんはT邸を「モダンの中に見え隠れする和の奥ゆかしさ」と表現する。設計や施工に関して、印象に残っていることをたずねると、

「運河沿いということもあり、地盤が固くないことから基礎の杭打ち作業で特殊な工法を用いる必要がありました。そこでかなりの時間を要したことでしょか…」

そんな努力を経て、T邸はプランニングから約一年半で竣工した。肝心のガレージについて尾高さんは、

「ガレージを作るときには、住む人にとって住宅の一部として機能しなければならないと考えています。また、つねにそうした演出を図って設計しています」

旗竿敷地という制約の多い土地形態において、デザインと機能が絶妙なバランスで設計されたT邸。施主の要望を満たすだけでなく、期待以上の価値を提供する。そんなT邸は、和モダンのコンセプトどおり、和と洋が巧みに融合し住む人の安らぎとカーガレージライフとが共存できる作品であった。



⑧丹波の黒石が敷き詰められたアプローチを通ると、T邸のデザインコンセプトである「和モダン」を象徴する和室へと至る ⑨3階のテラス部分にはゲスト用のジャグジーを備えており、滞在中のくつろぎを提供する

施主の希望

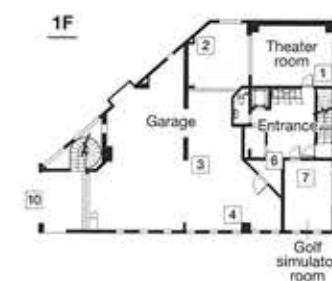
ファーストプランは、ほぼ一発でOK!

設計を依頼するにあたりTさんから尾高さんへの要望は、①住宅兼オフィスであり、居住空間と仕事のスペースはパレートしていること、②旗竿形状の敷地が有効活用できるレイアウトであること、③4台のクルマが十分に置いて、かつ出入りが容易なガレージであること、④和モダンが感じられる家であること…など、明確なものであったという。この要望に対して尾高さんが提案したファーストプランは、若干の仕様変更はあったものの、ほぼそのまま竣工となった。

建築家のこだわり

ロケーションを十分に考慮したデザインを

「運河に面したロケーションをうまく生かすように、部屋のレイアウトやガレージのスペース、そして動線などを考慮しました。また、オフィスと住居とのすみ分けと、それに伴う使い勝手についても十分に検討しました。デザイン面においては、ファサードやリビングに設置した空間の仕切り板のほか、和室にもアクセントとして使用している「格子」を用いることで、住宅全体に和の雰囲気だけでなく一体感を持たせました」



「ウォーターフロントのガレージハウス」

主要用途：専用住宅 構造：木造(2×4)
敷地面積：482.41㎡
建築面積：235.75㎡
延床面積：649.41㎡
設計・監理：アーネストアーキテツ株式会社
tel.03-3769-3333(代表)
<http://earnest-arch.jp/>